

刊日

高知新聞

社団法人高知新聞社
九五町南町平島島部
次 藤原 伊 人行發
一 藤原 伊 人行發

刊夕日二十月五

一ヶ月 三十銭
一 部 二 銭
廣告料 一行五十銭
場所指定 十銭増
日曜祭日翌日休刊

るが、果して何れが其選に
入るや留測もつかぬ、第一
順の佐瀬先生は目下病弱で
其任かどうか、第三順の會
田先生は校長と義弟の關係
にあり我田引水の誹りがあ
らうし、年輩技術方面等考
置順よりすれば佐瀬、宮津
會田、草野諸先生の順にな
先生か。

百圓
二、村道改修の件 六千圓
三、矢田川改修工事實施の
件 工役七千圓 内四
分の三縣補助 四分の
一政府低利資金借入
四、凶作對策事業施行の件
南宮岡原千七百圓
内三分二縣補助三分一
政府低利資金借入
八、代公行政民計

中之作某カンエーのピカ
一ラン子さん、お客から百
圓札をもらつたとか、貯金
が何百圓あるとか、その景
氣のいゝ事は、女のほそ腕
のくり／＼した目で秋波を
送られたら、それも無理も
ないことか？

濱だより
(十二日分)
小名濱町魚市場調査
スズキ 十貫 廿一割
石持 七十貫 五十一割
松川 七十貫 五十一割
タナゴ 六十貫 十一割
カツ 三百本 十二割
カサ 七十箱 一ヶ八十銭

榮職を忘れ 泥暴行をした伍長に

平署でお灸

夏井村消防組第一消防隊として去る十一日柴田署
手伍長片寄甚四郎(三)は昭長其の他立會で落成式を舉
和七年六月四日伍長を拜命行された。
言喧嘩したる行為あるを夏
井村駐在所田中巡査の深知
するところとなり、平署に
告發され昨除名された理由
は左の通りである。

平町役場の應募 滿洲移民隊

平町役場にて第四次滿洲
農業移民希望者を廿五日迄
は左の通りである。

待望の鯉群 銚子沖に現る!

小笠原八丈島附近の鯉群江名の諏訪丸、喜得丸、盛
はいよ、北上、現在では厚九等大型漁船も三日の
銚子沖三百マイルが鯉船中に出漁すべく各漁は準備
に漁きかへつてゐる。

小名濱町醫者は 久保田先生に輿論一致

校醫は誰か?

小名濱町では町醫と校醫ある久保田先生は今町醫の
で行はれ營業者の悩みななであつた中村先生の死去に代理を勤め、技 能 繼 承 者 として、新 郎 は 農 科 大 學 出 身 の 秀 才 で 新 婦 は 醫 女 出 身 の 才 媛 の 譽 高 し
身 體 的 才 能 繼 承 者 として、新 郎 は 農 科 大 學 出 身 の 秀 才 で 新 婦 は 醫 女 出 身 の 才 媛 の 譽 高 し
身 體 的 才 能 繼 承 者 として、新 郎 は 農 科 大 學 出 身 の 秀 才 で 新 婦 は 醫 女 出 身 の 才 媛 の 譽 高 し

秋遠から 縣議改選の陣容

選舉有権者調査確定

天高く馬肥ゆると共に縣
議出馬おさく、轡を並べ陣
容を固めつ、有る時に當り
各政界共に警眼を注ぎ、選
得るや選舉有権者確定は左
の通りである。

鹿島村通信

◆前鹿島村長鈴木家の慶事
鹿島村大字久保前鹿島村長
鈴木大藏氏長男榮一君と内
郷村小島安藤定孝氏愛孫と
の結婚式を五月十二日舉行
された、新郎は農科大學出
身の秀才で、新婦は醫女出
身で才媛の譽高し

豆ニユース

六月十四日午前十一時半
點の爲小名濱港外に回
航する二等巡洋艦那珂は
排水量五九五噸、全長
一五二四米、最大幅一四
四米、速力三三ノット
を有する。

中之作(本廠商店調査)
平目 十五貫 廿四割
アノコ 五十貫 二割五
赤魚 三十貫 一割二
水タラ 七十貫 三割五
サガキ 千本 一本六錢
生コ 千五百本 一本四錢

中之作(本廠商店調査)
平目 十五貫 廿四割
アノコ 五十貫 二割五
赤魚 三十貫 一割二
水タラ 七十貫 三割五
サガキ 千本 一本六錢
生コ 千五百本 一本四錢

近日來演

浪曲界の藝術大家
春日井 梅鶯師
平町 泰樂館に

江名濱(ト印商店調査)
赤テ 千五百貫 一三割
目板 三百貫 一三割
銀鯨 千本 一本三錢
ナメタ 百貫 四割
入港船 十三

注意!!!

投稿は總て住所本名記載
のこと、但し紙上の匿名
は自由、規定に反するも
のは没許!

今日 東風で曇り、驟雨模
明日 北西の風で曇り後
晴れ

平町南町五九
刊常磐新聞社内
編輯部宛へ

『短編花柳小説』



山

霧

遠藤紳一郎作

【四】

かうしたきつかけから、
牧と千秋とは殆んど毎晩の
様に此の「やま」と「霧」で
逢瀬を繰り返す様になった。
口さがない花街の人達の
噂に、牧や千秋の名前がの
ぼる様になった頃は、初め
の晩の様に千秋も牧を困ら
せる様な酒も飲らず、何か
しつしんみりとしたものが
お互の胸と胸へ通つて、更
に馴染に馴染を重ね、どう
しやうもない程深間へく
と落ちて行くばかりだった
ことに牧は、遺産も目に
見えて減つて行くから、千
秋に對する思ひは、灼ける
様に激しい。
『もう夏ね』
千秋は慕ひ寄つて来る敷
を拂ひながら、そつと沖の
燈臺へ目をやつた。
『いよ／＼小名濱の天下が
来る譯だな。』
千秋は、月見草を散した
浴衣を着た、すんなりした
体を收へびつたりと寄り添
ふたまゝ、波打ちぎわに出
た。
『話があるから』
と誘ひ出した千秋だった
が、結局温泉へでも行つて
みたいと云ふ語以外は唯二
人とも黙つたまゝ、何の話も

▼内科一般
川井診療所
川井安子
平町南町六五
電話二四三番

◇眼科専門◇
鈴木科眼醫院
本院 植田町
分院 小名濱町古港

外科専門
レントゲン科
上田科外醫院
病室の設備入院應需
平町南町
電話二一九番

淋病ノ靈藥
サコメ球
發賣元 開陽堂藥舖
藥劑師 松崎 勳
小名濱銀座街

内科・外科
小兒科
花柳病科
平川醫院
江名町 電話二六

保有効
快鼻湯
効能 著腫症、慢性急性鼻淵、鼻汁多加症、
頭重、肥厚性鼻炎に靈効あり
其他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に偉大な
神効ありと賞賛されて居ります
快鼻湯製造發賣元
警城國中町一丁目
責任製劑者藥劑師 水野清一

▼眼科一般
小名濱眼科醫院
小名濱町

魚市場 油部
磐城水産工業株式會社
社長 長人配支
小名濱町
野尾 小
伊尾 小
伊太 小
平野 小
太郎 小
番四一話電
番四一話電
店理代 社會式株險保生井三
社會式株險保火正大

内科・外科
花柳病科
小兒科
會田醫院
院長 會田 亮
小名濱町上横町

齒科一般
口腔外科
木田科齒醫院
小名濱町電話一〇五番

内科、小兒科
婦人科、花柳病科
久保田醫院
小名濱町
電話二二番

▼臨時家政婦速派▲
一層身元確にしてなる誠實婦人を料金は低廉
に遠近を問はず御奉仕致します。
派出多忙に付會員募集
當會は會員お互に親和をいつくしみ一家の家
庭の如くあたゝかく向々の仕事に派出するこ
とが出来ます。
妊産婦の御家庭
御病人の付添
其他 雑用
平町紺屋町二

上原家政婦會
電話二二番
會主産婆 上原通子